

～子ども安全フォーラム～

日本子ども安全学会第10回大会



子どもたちの学びと経験

～安全を前提に～

『何もなかった』ことを誇りにする

2023/09/30

社会福祉法人龍美 ハッピードリーム鶴間（認可保育所）園長 土橋 一智

Profile: (社福) 龍美

ハッピードリーム鶴間

所在地：東京都町田市（東急田園都市線「南町田グランベリーパーク駅」）

施設：認可保育所

規模：定員**142**名(本園**116**名分園**26**名) 職員数：約**50**名(一般職含む)

園児：**0**歳児～**5**歳児(就学前)

【保育の特徴】

- 興味関心を意欲に変える「子ども主体」の保育実践
- 五感を広げる幼児期の「体験の保障」を重視
- 子どもの関係性の成長を促す「異年齢保育」
- 「子が自ら成長する力」を信じ大人が寄り添う保育



保育園で子どもたちが安全に生活できる環境

「何もなかった」を作るために気をつけていること

-
- 『事故は起こる』を共通理解する。
 - 「今まで何もなかったから」「うちの園ではあんなことは起こらない」という思考は大事故が起こる要因
 - 事故対応は「予防」（想定）と「対応」を準備して
 - 安全については楽観者ではなく
ビビりになるう
-

反面、保育所で子どもたちが成長するために

私たちは良く

『**安全第一**』というけど、それでは子供の
育ちを保障できない。

子どもの育ちを保障するために

『**安全を前提に**』どんな成長体験を保障で
きるか。

『安全第一』を目的にしてしまうと...

子どもは体験を通して成長する。そのさまざまな体験（学び）を保障することが重要。

しかし、『安全第一』を印籠に掲げてしまうと...

- 園の壁は全てクッションで覆い怪我を防ぐ
- 園外・園内共に危険な活動や遊びは行わない
- 生活資材の角は全部面取りして丸く
- 環境は全部バリアフリー！

これでは私たち教育者が子どもに必要な学びや
体験の機会を提供することは不可能

『安全は前提』であり、土台

子どもは体験を通して成長する。安全は生活の前提として、大きな目的のひとつと考えたい。

大人がコントロールできる危険はしっかりとコントロールしながら体験（学び）の環境を保障することが重要。

そのために普段から、

「コントロールできる危険」と「コントロールできない危険」を保育者が常に考えながら「最高の学び体験」の環境を準備し提供することが大事。

「生きる力」「基本的な生活習慣」「社会のルールやマナー」などを同時に学んでいく保育園生活で最大の体験と学びを

事例：危険をコントロールして最高の体験を



子ども達にとって大切な体験の機会
川で泳ぐ危険をどうすれば回避できるか
たくさんの危険想定と準備、事故が起こった
場合の対応まであらゆる想定することが
「安全を前提とした活動」につながります。

想定＝見たことのある景色

事故は起こる！という大前提と、それが起こる場面の想定をしておくことで、あせらず冷静に対応することができる。

Ex.川遊びの例で言うと...

川に流される想定→流された先に浅瀬があること

深みに沈んでいく想定→ライジャケ・川の透明度

川の増水→安全な高さの避難（宿泊場所）

子どもの逸脱→見守り人数・小まめな人数確認

そして、より「何もなかった」のために

他園やニュース等の保育施設の事故事例は自分の園でも起こるかもしれないという意識

(ヒューマンエラーは必ずある。他人事にしない)

●離乳食期のりんごでの窒息

●バス置き去り・登園時の事故

●水辺での事故

●自園のヒヤリハットも流さないで精査しよう！

※意識で向上で防ぐ・システム(仕組み)で防ぐ

とは言っても.....うちでもきっと起こる

「何もないこと」を誇りにするには

今まで「何もなかったから大丈夫」

ではなくて、

「何もないわけがない」と言う保育者の

一人ひとりの意識が大切です。

どうか、**みんなでビビりになりましょう。**

ありがとうございました。
